



▲岩盤の隆起と吉野川の渦流で作られた獅子岩



▲写真③小歩危付近



▲写真②旧歩危茶屋付近遊歩道



▲写真①道の駅大歩危付近

かると、背斜構造の山を下りかけて出口の部分となるため、岩の向きは下流方向（逆向き）に変化していきます（写真③）。このように特異な地質構造の変化の様子が断面的によくみえるところが大歩危の隠れた見所です。

彫刻作品を思わせる岩石

大歩危の岩石は、長年、吉野川の激流に浸食され削られ続けたため、まるで彫刻作品のような美しい形をした岩石が多く存在します。遊覧船などから見える代表的な岩石に「獅子岩」があります。これも実は、自然の力によって偶然作られたもので、岩盤の隆起（盛りあがったこと）と吉野川の渦流（渦を巻いて流れること）による浸食によってできた合作です。このほかにいくつもの渦流による浸食が連続したことで、ノコギリ歯型状の形になった岩肌もあります。

また、いくつものシワが重なったように見える変わった岩石もあり、シワの原因は、地層や変成岩などが高い圧力で変形し、波のように曲がってし



▲遊歩道から見える大歩危

先月号では、大歩危は、日本列島の成り立ちを知るうえで学術的に価値の高い場所であるという内容を紹介をさせていただきました。

今月号では、隠れた「大歩危の見所」について、ご紹介します。

【お問い合わせ先】三好市教育委員会文化財課 ☎ 72-3910



▲V字谷と吉野川の渓谷美

国内希少の地質構造と自然景観が詰まった 国指定天然記念物「大歩危」

～大歩危に秘められた価値や見所とは～

特集

大歩危の見所

大歩危は、切り立った山々に囲まれたV字谷とそこを流れる吉野川の渓谷美が他に類をみないほど美しい自然景観を形成しています。さらにその景観が四季折々に姿を変え、訪れる人々を魅了してくれます。大歩危は、こうした見所が豊富です。有名ですが、実はその渓谷美に隠れられた別の見所があります。少し見方を変えることで、また違った見所を楽しむことができます。吉野川に調和した岩肌や変わった形をした珍しい岩（奇岩）などは、国道沿いの遊歩道や遊覧船などから気軽に鑑賞することができます。こうした岩の一つ一つをじっくり見ると、新たな楽しみ方が生まれてきます。

変化する地層の傾き

何気ない岩肌ですが、大歩危から小歩危にかけて、岩肌に変化が見られます。岩肌に見える斜めに傾いた地層の筋が一定の

まったために、美しいシワのような形を見せてくれます。が、どれも自然の壮大さを感じることができません。



▲美しいシワが重なり合った岩



▲角のような突起物がついた面白い岩

大歩危の自然美を詠った句碑

大歩危には、このほか美しい自然景観を詠んだ歌碑などの文化的資源があります。現在、大歩危小歩危と呼ばれている吉野川周辺は、古くから大変険しい地形が広がっていたために、県



▲後藤新平の句碑

下有数の景勝地として知られるようになったのは、明治以降になつてからといわれています。明治20年代に国道（現在の現道）が作られるまでは、大歩危は、当時の通行人には、大変危険な難所として敬遠されてきました。藩政期の絵図からもその当時の通行人が利用した道（街道）は、現在の国道付近よりさらに高い位置の山深い場所を通っており、大歩危小歩危の難所は避けられていたようです。このため、明治以前は今のよう

だった後藤新平が大歩危で句を詠んだことがきっかけと言われています。「岩に題す 天下第一歩危の秋」という後藤新平の句は大歩危を代表する句で、遊覧船乗り場の駐車場脇に句碑が建てられています。また、三好市山城町出身の文人、故富士正晴氏の父、富士憲郎氏が「大歩危の季節」を詠んだ句碑「老鷲や船へかたむくもが峰」が国道の遊歩道沿いに建てられています。この句は、大阪毎日新聞新日本百景金牌受賞の句で、憲明氏の弟子が昭和32年に建立したものです。



▲富士憲郎氏の句碑

こうした大歩危にちなんだ句碑などが楽しめる場所も見所の一つです。皆さんもぜひ、一度大歩危の見所に触れてみてはいかがでしょうか。